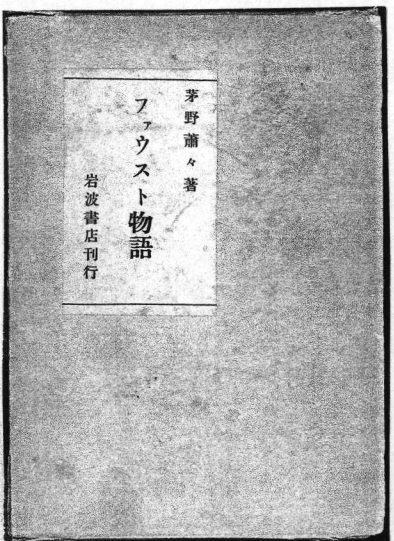


茅野蕭々 （せうく） ドイツ文學者、歌人、文學博士。明治十八年二月十八日長野縣生れ、昭和二十一年八月二十九日歿（八三—一九三二）。本名儀太郎。別號暮雨、白箭、白箭子、茂美知、茅の舎、茅野暮雨、茅野白箭等。明治四十一年東京帝國大學文科大學獨文科卒。翌年第二高等學教授、大正九年慶應義塾大學教授、十一年日本女子大學教授兼任。在學中から東京新詩社同人として雜誌『明星』、『コスバル』に詩歌等を發表。妻は歌人茅野雅子。

著書 『鬱金草』（合著・竹友藻風編、大正四年五月十五日梁江堂書店・大阪本梁江堂）、『世界文學史綱』（大正十四年五月二十日白進堂「最近思潮叢書」）、『フアウスト物語』（大正十五年一月十五日岩波書店、再刊・昭和二十二年五月二十日慶友社）、『文章講座・第一卷』（合著・日本放送協會關東支部編、昭和二年四月十二日日本フエノ協會ライヂオ講演）、『上田敏詩抄』（編、昭和二年十一月一日、増補版・十二年六月十日岩波書店「岩波文庫」）、『世界近代詩研究』（合著、昭和五年九月十日金星堂「現代詩講座」特裝本）、『ゴエエ研究』（略裝廉價版・昭和十年八月五日第一書房）、『ロギョーテナツウスト』（昭和十一年一月四日岩波書店「大思想文庫」）、『獨逸浪漫主義』（昭和十一年九月二十

五日、改訂版・十七年八月二十一日三省堂、再刊・二十二年十月二十日三省堂、再刊・二十二年十月二十日三省堂書店）、『朝の果實』（茅野雅子合著、昭和十二年十一月二十一日岩波書店）、『現代學生は何ぞ爲



「ナジミカ」(合著・室伏高信編、昭和十五年二月二十日四谷書房)、
「國語文化講座・第一卷一國語問題篇」(合著、昭和十六年七月二十日朝日新聞社)、
「日本の詩と音楽」(宇隨憲治合著、昭和十六年十月一日日本文化協會「日本文化」)、
「ゴグヨエテ研究」全三冊(上巻・昭和十八年八月五日、下巻・七月五日第一書房)、
「文藝論攷」小牧健夫博士還暦記念論文集」(合著・春田伊久藏編、昭和二十二年十一月五日生活社)、
「蕭々雅子遺稿抄」(安倍能成編、昭和二十二年十一月二十日岩波書店)等。
譯書、エエブネル・エツシエンバッハ作「兄と妹」(大正九年十一月二十日家庭讀物刊行會「世界少年文學名作集」)、
「獨逸戯曲集」(大正十二年一月二十七日エエ社出版部)、
「モストリントベル全集」(十一戯曲ダマスキスへ」大正十二年二月二十八日、
「自由少年主義的戯曲」小宮豊隆共譯・八月一日岩波書店)、
「ストリントベル」作「令嬢エツエ」(昭和二年七月十日岩波書店「岩波文庫」)、
「ゲョエテ作」
「右ハヱルテルの惱み」(昭和二年一月五日岩波書店「岩波文庫」)、
「世界童話集」(共譯、昭和四年八月二十日タルス「日本兒童文庫」)、
「フレイヒル著・ブリエウフェル編及び跋」母の歌と愛撫の歌」(昭和九年四月五日岩波書店)、
「タンデルセン作」繪本と繪本」(昭和九年九月二十日岩波書店「岩波文庫」)、
「リルケ作」戀する人」(昭和十一年七月十日日本書局「日本文庫」)、
「シエニッツレル作」緑の鸚鵡他一篇」(昭和十一年十一月二十日岩波書店「岩波文庫」)、
「シエトルム作」白馬の騎士他一篇」(昭和十二年十一月五日岩波書店「岩波文庫」)、
「ワグネル詩集」(昭和十四年八月十日第一書房)、
「ゴグ

↑ 予詩集・一 四 (昭和十一年十月七日岩波書店「岩波文庫」) 日獨
逸近代詩集』 (共譯・片山敏彦編 昭和十二年十月一日岩波書店)
『予詩集』(一)等。